

# 地域研修(鳥取県) 地域研修カリキュラム

(1) オンデマンド講義(LMSを利用) 視聴時間合計:約9時間 / 視聴期間:11月20日(月)~12月21日(木)

□:基礎的な内容の単元    □:応用的な内容も含む単元    ●:受講必須 / ◇:受講任意(申し込み時に全て受講必須を選んだ方は受講必須)

区分	単元	単元の概要	時間(目安)	講師	単元の学習目標
導入	- 内閣府からご挨拶	● 内閣府から受講者へのメッセージ。	5分	内閣府	-
災害対応業務全般	1 防災行政概要	● 災害対応の全体像について学ぶ。	20分	鈴木 毅 (内防・地方訓練)	・防災に関する業務全体を俯瞰し、各業務の概要・位置付けを説明できる
	2 災害法体系と災害対策基本法の概要	◇ 災害関連法の体系と災害対策基本法の概要を学ぶ。	15分	佐々木 凛太郎 (内防・総括)	・災害関連法の体系と災害対策基本法の概要を説明できる
	3 防災計画の概要	◇ 防災基本計画、地域防災計画、業務継続計画等の概要を学ぶ。	15分	大井 翔太 (内防・計画)	・防災基本計画、地域防災計画、業務継続計画等の概要を説明できる
事業継続計画	4 行政のBCP、BCM	● 行政におけるBCP、BCMの意味と策定のポイントについて学ぶ。	60分	丸谷 浩明 (東北大学)	・行政のBCP、BCMの意義と必要要素を説明できる。 ・重要業務に不可欠なリソースの確保について説明できる。 ・訓練、維持管理、見直しについて説明できる。
住民啓発	5 住民啓発	● 住民向けの防災の啓発の基本的な事項および具体例について学ぶ。	60分	国崎 信江 (危機管理教育研究所)	・住民の防災の責務と啓発の意義を説明できる。 ・住民啓発の方法を説明できる。 ・住民啓発の留意点を説明できる。
	6 地域の自主的な防災活動	● 住民の自主防災組織の意義・役割と行政による推進策について学ぶ。	80分	丸谷 浩明 (東北大学) 脇田 智茂 (広島県広島市) 柳迫 長三 (落合学区自主防災会連合会)	・自主防災組織の目的と制度概要について説明できる。 ・自主防災組織に期待される役割と現状、課題について説明できる。 ・地域の他の自主的な防災団体の役割と現状、課題について説明できる。 ・地域の防災訓練の意義と基本的な方法について説明できる。
	7 地域防災リーダーの育成	● 地域における防災リーダーの育成の意義と研修の企画、実施手法を学ぶ。	80分	重川 希志依 (常葉大学) 元谷 豊 (サイエンスクラフト)	・地域の防災リーダーの育成に関する基本的な考え方を説明できる。 ・地域の防災リーダーの育成に関する留意点を説明できる。
災害から命を守る	8 「避難情報に関するガイドライン」の経緯	● 「避難情報に関するガイドライン」について学ぶ。	15分	牛山 素行 (静岡大学)	・災害情報に関する基礎的な概念を説明できる ・内閣府「避難情報ガイドライン」のこれまでの動向について説明できる
避難所の開設・運営	9 避難所の開設・運営の概要	● 避難所の開設・運営の概要を学ぶ。	15分	伊藤 靖晃 (内防・避難生活)	・避難所の設置主体や役割を説明できる ・発災前に考えるべき避難所開設・運営の業務を説明できる ・発災後に考えるべき避難所開設・運営の業務を説明できる
	10 多様な主体による避難所運営	● 地域の多様な主体が避難所運営に関わることの意義を学ぶ。	15分	本間 優子 (内防・普及啓発)	・地域の多様な主体が避難所運営に関わることの意義を説明できる
	11 避難所運営の実際	● 事例を基に避難所運営の実際を学ぶ。	60分	国崎 信江 (危機管理教育研究所)	・避難所のライフサイクルの事例を説明できる。 ・災害時要配慮者のための避難生活支援の事例を説明できる。 ・多様な主体による被災者支援の事例を説明できる。 ・被災者支援の個別課題の事例を説明できる。
	12 要配慮者をはじめとする避難者の避難生活支援	● 災害時要配慮者を始めとする避難生活への支援対策を学ぶ。	45分	相馬 幸恵 (新潟県)	・地震災害を事例とした避難生活の支援について説明できる。 ・避難所運営業務における健康管理の位置づけについて説明できる。 ・在宅避難生活における健康管理について説明できる。 ・避難生活を支える保健医療体制の全体像について説明できる。
災害時の応急活動	13 国としての物資の備蓄および災害時における物資の調達・輸送	● 救援物資の調達・輸送の概要を学ぶ。	15分	影沼澤 稔 (内防・デジタル)	・救援物資の調達・輸送の概要を説明できる
	14 救援物資の輸送	● 救援物資の輸送に関する実務と課題について学ぶ。	30分	森下 侑里香 (佐川急便)	・救援物資の輸送の実態について説明できる。 ・救援物資の輸送を民間企業・団体と連携して行う際の留意点を説明できる。 ・救援物資の輸送を円滑に行うための事前の備えを説明できる。
	15 災害廃棄物処理(概要、自治体の発災直後の対応)	● 被災地における資源確保の例として、災害廃棄物の撤去・処理の進め方と留意点を事例に基づき学ぶ。	15分	鳥居 ほのか (環境省廃棄物対策課)	・災害廃棄物処理の概要を説明できる。 ・災害廃棄物処理における資源管理と応援支援を説明できる。

(2) リアルタイム研修(対面形式) 開催日:12月22日(金) 9:30~17:00 会場:倉吉体育文化会館 2階 中研修室

※以下は調整中の内容を含みますため、一部変更の可能性があります。

時間	単元	単元の概要	時間(目安)	講師	単元の学習目標
09:40 ~10:30	1 【講義】 地域の災害特性	地域の災害特性(地域の脆弱性含む)、想定される被害状況とその発生メカニズムを学ぶ。	50分	小島 至 (鳥取地方気象台)	・地域の災害特性と想定される被害の概要を説明できる。
10:40 ~11:50	2 【講義】 災害対応の実態と課題	災害対応の実体験を踏まえた課題や教訓を学ぶ。	70分	森下 邦治 (福知山市)	・災害対応の実態や課題・教訓が説明できる。
11:50 ~12:20			30分	大原 美保 (東京大学大学院)	
13:30 ~15:40	3 【演習】 災害対応過程と態度を学ぶ	実際の災害発生時の地方公共団体の対応事例を題材に、事前対策や災害対応に対する心構えを学ぶ。	130分	瀧波 崇 (サイエンスクラフト) /大原 美保 (東京大学)	・災害発生前後に必要な行政の対応の流れを具体的に説明できる。
15:50 ~16:50	4 【演習】 全体討論	研修全体を通じて学んだことから、地域の防災力向上や備えに反映させるべきことを受講者間で考える。	60分	事務局 大原 美保 (東京大学大学院)	・研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・日頃からの「備え」につなげることを認識する。